

# 文学から描くノルデステ

## 田所 京大教授「ブラジル北東部の風土と文学」

「北東部は、ブラジル文  
化の揺籃(ようらん)の地  
である」。翻訳・著述  
家で京都外国語大学ポルト  
ガル語学科で講師を務める  
田所清克教授がブラジル文  
学を代表する小説家の出身  
地、ノルデステ(北東部)  
を題材にした『ブラジル北  
東部の風土と文学』(金壽  
堂出版)を執筆、昨年十二

月中旬に出版した。

田所教授にとって、ノル  
デステは「文化や音楽、民  
間伝承などのメッカ」。北  
東部の自然・文化景観とそ  
こに生きる人々は、「いわ  
ば自分の魂を激しく揺さぶ  
るほど愛着を覚える存在で  
あり、尽きることのない郷  
愁の対象であり続けてい  
る」と綴る。

同教授のノルデステへの  
情熱は、大学院時代のリオ  
のフルミネンセ大学留学  
中、ブラジル内務省企画の  
「ロンドン計画」に参加  
し、女性作家のラツケル・  
デ・ケイロースの作品  
『Quilme 15』が描くセア  
ラー州に一月滞在したこ  
とがきっかけ。その自然・  
文化風土のもつ雰囲気と独  
自性を実際に自身の目で  
見、耳で聴き、鼻で嗅ぎ、  
舌で味わい、そして直接肌  
で感じたことが、「北東部  
の文学を展望・俯瞰する上  
で大いに役立った」と同著  
で述べている。「北部アマ  
ゾナス」「南東部」「南  
部」「中部」の比較考察を  
行うきっかけにもなったと  
田所教授。

それ以来、三十年間の研  
究のなかで、現在までに、  
世界的に知られているヴィ  
ニシウス・デ・モラエスに  
よる「イパネマの娘」など  
の知名度の高い作品から、  
完成度は高いものの過去に  
日本語訳されるまで知らな  
かった作品まで翻訳を手掛  
けるかたわら、文法書やブ  
ラジル社会学について数多  
くの著書を多く執筆してき  
た。

今回は「文明史と風土的  
特性からみた北東部社会」  
「ブラジル地方主義の伝統  
——一九三〇年代の小説を中  
心に——」「ブラジル民族形  
成の寓話——蜜甘き唇の処女  
(おとめ)」「イラセマ」

にまとめ上げた。

メッセージを寄せたアン  
ドレ・アマード駐日ブラジ  
ル大使は、同書について  
「簡潔であるにもかかわらず  
包括的で、(読者にとつ  
ては)ブラジルの偉大な諸  
作家に関する入門的な素晴  
しい機会を与えることを

確信している」と推奨して  
いる。  
発行は金壽堂出版。定価  
二千六百元。ホームペー  
ジ <http://www.kinjudo.com>  
Eメール  
[book@kinjudo.com](mailto:book@kinjudo.com)

田所清克氏(熊本県出  
身。京都外国語大学大学院  
修了。現在(財)日伯協会  
常任理事、京都外国語大学  
教授、ブラジル民族研究セ  
ンター主幹・大阪府外国人  
相談員アドヴァイザー。  
「ブラジル学への誘い」  
「愛詩てる僕のブラジル叙  
情歌」「現代ポルトガル語  
文法」など、七十冊以上の  
著書がある。

### ブラジル北東部の 風土と文学

田所清克 著  
Fund e Lacerdade de Curitiba, Parana



「ブラジル北東部の風土と文学」  
表紙